

2019年7月5日（金）～6日（土）

巻機山（1967m）

～Report by 吉松～

今年は例年に比べて梅雨らしい梅雨となりました。今回の巻機山登山も雨に遭う確率がかなり高かったのですが、幸運にも、私たちが登るこの二日間に限っては雨の予報は無く風も穏やかとのことでした。

昨夜は宿のご主人と話が弾んで楽しかったのですが、やはり登山を控えた前日には飲み過ぎました。根岸さんは上手にお酒の量をコントロールしたらしく、すっきりとした顔をしていましたが、池戸さんと吉松には酒が残っていました。

こうなることは充分承知していて随分気をつけてはいたのですが、全く情けないと反省しきりです。

2日目（7月6日土曜日）：曇



4時には全員起き出した。

昨夜のうちに宿で準備してもらった朝食用のおにぎりを食べて、山の準備を始めた。



（竹皮に包まれた朝、昼用のおにぎり弁当。銀ホイルには、鮭切り身、塩昆布、漬け物が添えられていた。）



5時30分

宿のご主人に玄関前で写真を撮ってもらってから、登山口の桜坂駐車場に向けて出発。



雲が広がってはいるものの、青空ものぞいていて、登山には申し分ない天気だ。

既に車が沢山駐車していたが、我々は昨日下午見をして様子を知っていたので、もっとも登山口に近い駐車スペースに車を停めることが出来た。

看板をバックに登山開始前の集合写真を撮った。

二日酔い気味の池戸さんは、ストック頼りにやっとのことで立っている風でも有り、何となく顔にも生気が無い。



6 時

井戸尾根コース登り口を出発



昨日足慣らしに登った3合5勺までの道は難なく来たが、そこからは赤土のぬかるみが多くなってきた。



30分ほど歩き、4合目で小休止



4合目からはやや急坂が続いた。

池戸さんは、流石につらそうだ。

「誰だ、俺に酒を飲ませたのは！最悪のコンディションだ・・・」(ブツブツブツ)



5合目（1128m）で小休止



5合目から6合目までの登山道には、ヤマツツジ、イワカガミ、ギンリョウソウなどの花が咲いていた。蟬が葉っぱの上で休んでいたが、珍しい光景であった。





7時50分 6合目に到着
ここはヌクビ沢が望める展望台である。



ヌクビ沢には、7月になっても溶けきれない雪が雪溪となって残っていた。



6合目を後にして30分ほど登ると、前方の視界が急に開けて大きな山が迫ってきた。



山の名は、前巻機山、又の名を「ニセ巻機山」（標高 1861m）

この山の山頂に立つと、目指す巻機山の姿が現れるそうだ。



8時40分 7合目に到着

ここからは暫く急登のガレ場が続くことになる。息を整えるため暫し休憩を取った。



7合目から西方向に個性的な形をした山が遠望できた。妙高山、火打山だ。



ガレ場を過ぎて、チシマザサに覆われた道を進むとやがて8合目だ。

高木が無くなり、風が吹き抜けるようになってきて、一枚服を着ないと寒くなってきた。



登山道は木の階段で整備されていた。

植生保護と再生のために、指定された登山道を踏み外して歩くことを規制している。

8合目からは、我々が宿をとった清水部落を見下ろすことが出来た（写真左）。
そこから更に右に目を向けると六日町外縁の集落も望むことが出来た（写真右）。



6合目から8合目までの登山道には、目立たないところに幾種もの高山の植物が咲いていた。





強い風に吹かれながら、前巻機山山頂を目指して最後の一踏ん張り。

9時40分 前巻機山山頂に到着した。

登山計画では、登山口から前巻機山山頂までの歩行時間にかなり余裕をもたせていたのだが、結局のところ「山と高原地図」に記載されている標準時間で登って来たことになった。

山頂を覆うチシマザサに隠れて、シャクナゲが咲いていた。





前巻機山山頂を越えると一気に視界が開けた。

植生保護用の木道を下った辺りに避難小屋があり、そこから雪渓を右手に見ながら登るとそこが百名山「巻機山山頂」である。

木道脇にはイワカガミの群生などが広がっていた。





木道を下りきったところのある避難小屋

中は、良く整備されている。
何人かの登山客が既に休憩しており、池戸
さんも得意の(?)「蛙のでんぐり返り」状
態で、休みを取った。



避難小屋から望む巻機山（左のピーク）と
その先の牛ヶ岳（右奥ピーク 1962m）

チシマザサに覆われた登山道（写真左）を
登り切ると、そこが目指す巻機山である。
青空であれば、一面に緑が広がっているの
を目にすることが出来るのだろう。



避難小屋で20分ほど休憩を取ってから、
巻機山へ向けて出発した。



途中、湿原を抜ける。



大小の池塘が現れ、その側にはイワイチョウが咲いていた。

水芭蕉の花は、終わっていたのか見ることが出来なかった。



10時40分 巻機山山頂（1967m）に到着

汗をかいて酒は抜けたはずなのだが、二日酔いの影響を引きずって、ここまで来るのが大変だった池戸さんにも、やっと笑顔が漏れた。





山頂より北に望む山々

越後駒ヶ岳などが見えた。



南に目を転ずると、今登ってきた登山道とその先の避難小屋が見える。

写真左には前巻機山があるが、雲に隠れて見えなかった。



10時50分

避難小屋で昼食を摂るため、下山開始

避難小屋とその周辺で昼食

なかなか美味しいおにぎり弁当だったのだが、池戸さんは胃が受け付けず、気の毒にエネルギー補給出来ないままの下山になってしまった。





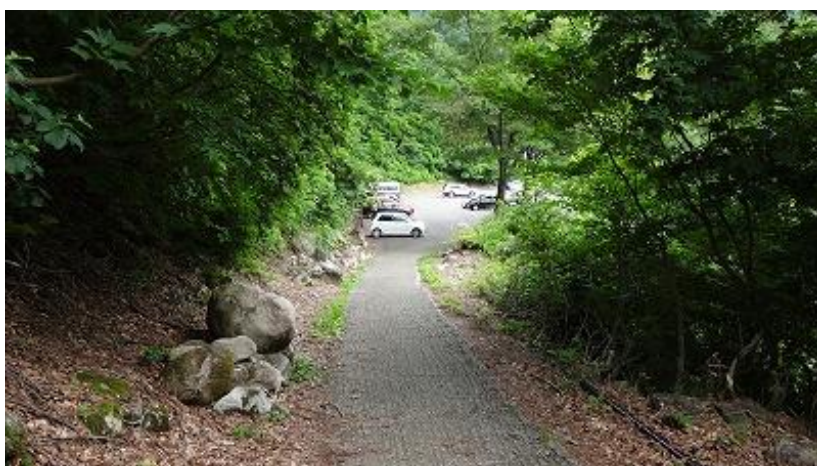
11時40分

前巻機山への登り返しを経て、登山口に向けて下山を開始した。



15時

登山口に戻った。
ほぼ標準時間で戻ってきた。



登山口からは駐車場がすぐそこだ。

駐車場を後にして、まずはお世話になった民宿「雲天」に立ち寄らなければならない。

無事な下山をご主人と奥さんに報告して、それから昨日の宿代を支払った。

汗を流す温泉は、湯沢町共同浴場「駒子の湯」だ。車で40分もかからずに着いた。



建物は未だ新しく、中も綺麗で気持ちが良い。500円也。

トヨタレンタカー越後湯沢駅前店で車を返した。公共機関による交通の便が悪かったので車を借りたのだが、宿や登山口、駒子の湯の間の移動に随分役立った。使用したガソリンはたったの2リットルほどであった。

早く下山が出来たので、帰り列車は予定より一時間ほど早い「特急 MAX とき334号」に変更した。
(越後湯沢発17時13分、東京駅着18時40分)



列車はガラガラ。
纏まって席を確保することが出来た。

「駒子の湯」で出来なかった乾杯を、根岸さん持参のウィスキーと焼酎で行った。



件の池戸さんは、「酒は見たくない」と2人の乾杯にも参加しなかった。

⑩そのくせ、かわいいお嬢さんが車内販売に回ってきたら、暫くあれこれ会話をしながら、結局冷たい缶ビールを所望していた。ビールは炭酸が入っているから良いのだそうだ。
言ってることとやることが違うでは無いか？

梅雨さなかの最中に雨に降られることも無く、巻機山山頂に立つことが出来ました。百名山の名に違わない素晴らしい山でした。

民宿のご主人によれば、紅葉時期はまた素晴らしいとのことでした。黄色に染まった山を楽しむなら9月下旬、赤に染まるのを待つのであれば10月10日くらいが良いとのアドバイスを頂きました。再び訪れたい山になりました。

***大反省**

登山前の飲み過ぎ、深酒は禁物です。

当たり前なのですが、そこが酒飲みの卑しさでついつい飲んでしまいました。厳に慎むべきだと身をもって感じた山行でした。

(・・・それにしても、新潟の酒は旨かった。)